

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19H01185

研究課題名（和文）哲学プラクティスと当事者研究の融合：マイノリティ当事者のための対話と支援の考察

研究課題名（英文）A Project on Fusing Philosophical Practices and Self-Directed Studies
(Tojisha-kenkyu): an Investigation of Dialogue and Support for Minority Groups

研究代表者

稲原 美苗 (Inahara, Minae)

神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授

研究者番号：00645997

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、マイノリティ当事者（障害者、被災者、不登校者、子ども、定時制高等学校の関係者、支援者、保護者など）との対話を実践し、また、マイノリティ当事者のための実践をしている実践者や研究者を招き、学際的な研究を実施した。コロナ禍でオンライン中心となったものの、哲学、現象学、社会教育、リスク学、教育工学などの研究者が集まり、学際的に議論を重ね、当事者と支援者、コミュニティとのつながり、支援や教育のあり方について再考した。結果、マイノリティ当事者が自らの経験を自分の言葉で語り、自分たちで考えることの重要性が多面的に浮き彫りになった。最終的な成果は研究成果報告書にまとめ、リポジトリにて公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、マイノリティ当事者だけでなく、支援者やアライ（支持者など）との対話的なつながりについて考察することによって、生きづらさや問題を共に探究することができる支援や教育のあり方を示唆することになった。また、生きづらさや問題を解決に導くために、支援者やアライを含む広義の「当事者性」を採用する必要性を明らかにしている。さらに、本研究は、哲学的対話の実践があらゆる問題を共に捉え直す態度を習得し、問題解決への糸口を見つける力をつけることにつながることも明らかにしている。

研究成果の概要（英文）：This project brought together practitioners, researchers and others whom have been engaged in ongoing dialogue with minority groups (people with disabilities, disaster victims, truants, children, those involved in night schools, their supporters, their parents, etc.) to consider the power of philosophical dialogue. After the COVID-19 pandemic, the world as it had been before became extraordinary and disparities widened as never before. While online-centered practices continued in this context, the significance of allowing minority groups to speak about their experiences in their own words and think for themselves was highlighted. In this study, researchers in philosophy, phenomenology, social education, risk studies and educational technology gathered for interdisciplinary discussions to reconsider the connection between the minority groups, their supporters, and communities and to reassess the meanings of support and education. The final research report was published in a repository.

研究分野：臨床哲学

キーワード：哲学プラクティス 哲学対話 当事者研究 マイノリティ 現象学 社会教育 学際的研究 臨床哲学

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1)「哲学プラクティスと当事者研究の融合：マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」(2019～2023年度基盤研究B、課題番号19H01185)の研究プロジェクトの中で、研究代表者の稲原美苗と分担者の梶谷真司、池田喬は、哲学プラクティスの観点から対話実践がマイノリティ当事者のエンパワメントにつながると考えてきた。特に、稲原と池田がこれまで研究してきた当事者研究を再考し、当事者と非当事者をつなげる対話実践の可能性について考え始めていた。さらに、梶谷は、P4E (philosophy for everyone 「みんなのための哲学」) の実践を長年続け、その中で参加者たちが多様性や包摂性について学び合う機会を増やし、対話の場づくりについて考えてきた。当初、梶谷、池田、稲原の3人が話し合い、本研究プロジェクトの企画を出した。

(2)本研究の代表者及び分担者たちは、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、貧困、障害、疾病、加齢、災害、不登校などが理由で、社会的属性が少数派に位置する者の立場やその集団(マイノリティ)を主題にした学際的研究や対話実践を続けてきた。マイノリティ当事者にとって「生きづらさ」を自分で「考える・語る・表現する」ことが重大な意義をもつという認識に至り、「対話」を共通テーマとする実践研究の構想に至った。本研究は、哲学・倫理学、臨床哲学、当事者研究、ジェンダー学、社会教育学、リスク学、教育工学などの領域の知見を取り入れ、対話実践を支援に繋げること、そして、各分野の知見を総合し、その成果を教育・医療・福祉の現場にフィードバックすることを目的として設定した。

2. 研究の目的

(1)本研究は、ジェンダー、セクシュアリティ、エスニシティ、貧困、障害、疾病、加齢、不登校など社会の中でマイノリティの境遇に立たされる人たちの対話から経験を記述し、彼らの支援を改善することを目的とする。そのために必要な研究を次の3つの部門に分け、それぞれの分野で研究した上でその成果を総合する。マイノリティの経験の現象学的記述、マイノリティのための哲学対話実践の開発、マイノリティに対する意識改革のあり方についての探究である。本研究の中で「哲学プラクティス」とは、主に哲学対話という方法を用いながら、哲学的な課題について共同で探究する実践活動を示し、「哲学対話」とは、参加者一人一人が興味関心あることに関して問いを出し、その問いについて考え、考えたことを言葉にして語り、他者の意見を聞くことを続け、共に考える実践である。本研究では、マイノリティ当事者が日常生活の中でもっている問いについて自分自身で、共に探究し続ける態度や学びを考察する。

(2)本研究の目的は、マイノリティ性と共に生きている当事者のための哲学対話実践が共生社会の実現にどう貢献できるか、その有用性について探究し、哲学プラクティスを当事者一人一人の支援の向上につながる端緒を開くことである。本研究の独自性・創造性として、次のような諸点を挙げるができる。第一に、これまで当事者研究として実践されてきたマイノリティ性と共に生きている当事者の対話・表現活動を哲学(主に現象学)の観点から分析する点である。第二に、当事者同士だけでなく、非当事者がマイノリティ当事者から学ぶとはどのようなことかを考察する点である。(本研究では、当事者/非当事者という二項対立的な考え方ではなく、異なる特性をもった当事者性が重なるということ想定している。)第三に、研究代表者と分担者がそれぞれの実践現場に密着し、対話・マイノリティ支援の総合的把握を目指している点である。

3. 研究の方法

(1)2019～2020年度は、それぞれの班に分かれて、マイノリティの課題整理をし、対話実践についての記述を蓄積することになっていた。そのために、当事者のための哲学対話の場の調査を実施する予定だった。しかし、残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、当初計画していた実践先の全てを調査することができなかった。しかし、研究代表者と分担者それぞれが実践を続けてきた場所での対話実践をオンラインなどで開催した。2021～2022年度は、マイノリティ当事者のための哲学プラクティスの有用性について探求することにしていた。ここでは、個々の実践の本質に即して、参加者のエンパワメントに資する有用性を具体的に提起した。2023年度は、以上の研究を通して、マイノリティ支援の中で意識改革を促す哲学プラクティスを総合的に考察し、研究成果を報告書にまとめることになっていた。意識改革については、研究期間全体を通して、定期的に獲得した知見を定期的に共有し、討議を通して妥当性を検討していく機会を作った。具体的には、定期的な研究会の他、国際シンポジウムを実施した。

(2)共同研究者それぞれの主な役割は次のとおりである。当事者の経験についての記述：池田喬・稲原美苗(当事者研究・現象学) 哲学対話の実践研究：ほんまなほ・高橋綾・稲原美苗・中川雅道(臨床哲学)・梶谷真司(P4E) 対話実践の総合的検討：梶谷真司(現象学・哲学プラクティス)・松岡広路(生涯学習論)・津田英二(社会教育&インクルーシヴ教育)・村山留美子(リスク学)・三井規裕(教育工学) 研究総括：稲原美苗(研究代表者)本研究は前述した3つのテーマを各研究班が追究し、その後、互いの知見を総合した「多様な当事者をつなぐ

ための哲学プラクティスの理論・方法」を構築した。

4. 研究成果

(1) 本科研プロジェクトでは、哲学プラクティス（哲学カフェ・哲学対話）と当事者研究の融合について考えてきた。哲学プラクティスやエンパワメントというテーマを取り上げ、対話実践の意義について研究していく中で、マイノリティ当事者のみならず、彼ら／彼女らを囲むアライ（支持者・同盟者・ally）または支援者をつなぐことについて考える必要があることに気づかされた。本研究を通して明らかになったことは、当事者同士が学び合うだけではなく、多様な参加者たちがマイノリティ当事者の語りから学ぶ機会を増やし、個人やコミュニティを変容する力を養うことができることだった。また、新型コロナウイルス感染症拡大、格差社会、そして数多くの自然災害の影響に伴い、コミュニティ内の個々人が分断され、多くの問題に直面している現代社会を生き抜くために「対話がもつ力」を再考し、その有用性を探究してきた。本研究で現象学、社会教育学、リスク学、臨床哲学などを専門とする研究分担者と協同し、私たち一人一人を「当事者」として捉えて、多様な人々と共生するための対話の重要性について考えてきた。

(2) 本科研プロジェクトの対話実践と研究について振り返り、まとめた。コロナ禍の影響で、国内外の研究者との交流や対話実践などが当初の計画通りに進まなかったという反省点が残った。だが、対面での研究交流ができないことを前向きに捉え、オンラインを駆使したシンポジウムを開催した。2023年7月の研究会は対面で、9月の総括シンポジウムは対面とオンラインのハイブリッドで開催された。本科研プロジェクトが主催として開催されたシンポジウム、国際学会発表、研究会を時系列に沿ってリスト化しておく。（各研究分担者は本リスト以外に研究会等を多数開催した。）

日付	イベント	内容
2020年2月23日	シンポジウム「被災地をめぐる哲学対話 科学・技術・暮らし・芸術・コミュニケーションを手がかりに」	本シンポジウムは、阪神淡路大震災から25年の節目を迎える神戸で、「被災地」について多角的に再考しようと試みた。 阪神淡路大震災や東日本大震災の被災地の人々に寄り添い、対話実践や調査を続けてきたものが集い、それぞれの実践活動やリスクコミュニケーションについて紹介した。 於：神戸大学（コロナ禍にて、急遽クローズド開催に変更） 村山と稲原が企画運営した。 登壇者： 佐藤豊（海辺の図書館カメラマン） 大沢佐智子（舞台美術家） 森信子（Wolf-note） 辻明典（てつがくカフェ@南相馬主宰） 永幡幸司（福島大学） 堀川直子（福島大学） 山川哲（神戸大学大学院生・当時）
2021年1月30日	オンライン・シンポジウム「不登校と哲学プラクティス」	不登校という現象は、それほど珍しいことではなくなっている。本シンポジウムでは広い意味で、学校に関わりにくい子どもたちと哲学プラクティスとの関わりについて考えた。それぞれのかたちで哲学プラクティスを実践している支援者たちが、哲学プラクティスと不登校の関わりについて経験を語った。その後、参加者たち共に対話をし、考える時間をもつた。 中川と稲原が企画運営 登壇者： 赤井郁夫（一般社団法人Officeひと房の葡萄） 村瀬智之（国立東京工業高等専門学校） 中川雅道（神戸大学附属中等教育学校） 稲原美苗（神戸大学）
2021年8月14日	オンライン・シンポジウム「定時制高等学校の役割と可能性～哲学プラクティスの視点から～」	「居場所」を失ってしまっている子どもたちが大勢いる。 「居場所」とはどのような場所のことを指すのか。それはその人がその人の存在を何も否定されない、ということに加えて、その人に特別な役割がある、ということだろう。定時制高等学校の教員たち、一般社団法人で居場所づくりをしている支援者がそれぞれの対話実践の取り組みについて語った。 梶谷、中川、稲原が企画運営 登壇者： 西山正三（宮崎県立宮崎東高等学校） 寺澤佐世（三重県立名張高等学校） 山方元（愛知県立豊川工科高等学校） 赤井郁夫（一般社団法人Officeひと房の葡萄） 村瀬智之（国立東京工業高等専門学校）

2021年12月5日	日本現象学・社会科学会 第38回大会（オンライン開催）シンポジウム「現象学とエンパワメント」	登壇者に、石田絵美子氏（兵庫医科大学・看護学）宮原優氏（立命館大学・現象学）そして前田拓也氏（神戸学院大学・社会学）を迎え、学際的な研究交流を行い、当事者が語ること、当事者の語りを聞くことの重要性について議論した。 池田と稲原がシンポジウムを企画・運営し、司会を務めた。
2022年8月9日	第20回子どもの哲学国際学会（The 20th Biennial International ICPIC Conference）	池田&稲原、中川が口頭発表 於：立教大学、ハイブリッド開催 （使用言語：英語）
2023年2月23日	オンライン・シンポジウム「当事者「家族」のための哲学対話～家族の「普通」を問い直す～」	「家族とは何なのか？」「家族と共に暮らすということはどういうような経験なのか？」 障害のある家族と暮らしてきた当事者たち、乳幼児の母親たちと哲学対話をしてきた実践者が対話の意義について語った。それぞれの経験から問題にアプローチし、家族をめぐる「当たり前」を問い直した。 池田と稲原が企画運営 登壇者 足高聖子（保護者） 高木佑透（『僕とオトウト』映画監督） 尾崎絢子（はなご哲学カフェ主宰）
2023年7月27日	G.ピースタのP4C批判とその行方 - 哲学プラクティスの現在への一視角	近年、P4Cや哲学対話が教育現場で実践されるようになってきた。しかし、哲学を学校教育のために利用する（哲学の道具化）という観点からオランダの教育学者G.ピースタはP4Cを用いた教育実践を批判した。この研究会では、ピースタのP4C批判を受け止め、日本でP4Cの実践研究してきた3人に登壇していただき、この批判の意義と限界は何か、この批判の後にどのようなP4Cを実践していくのかという問いについて考えた。 於：明治大学 池田が企画運営 登壇者 堀越耀介（東京大学） 土屋陽介（開智国際大学） 後藤美乃理（東京大学）
2023年9月24・25日	哲学対話と当事者研究についての総括シンポジウム（国際シンポジウム）	本科研プロジェクト「哲学プラクティスと当事者研究の融合：マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」の総括シンポジウムを開催した。ハワイで長年p4c（子どものための哲学）の実践研究を続けている Benjamin Lukey 氏をゲストスピーカーとして招へいし、プロジェクトメンバー、およびp4cや哲学対話などの実践をしている13名に登壇していただき、対話実践の中の当事者性などをテーマに考えた。 於：東京大学駒場キャンパス、ハイブリッド開催 梶谷と稲原が企画運営 （使用言語：英語・日本語） 登壇者 Benjamin Lukey（ハワイ大学マノア校） 渡邊文（ハワイ大学マノア校） Michael Gillan Peckitt（同志社大学） 堀越耀介（東京大学） 柏木睦月（十文字学園女子大学） 神戸和佳子（長野県立大学） 上館誠也（株式会社 ShiruBe） 梶谷真司（東京大学） 池田喬（明治大学） 津田英二（神戸大学） 中川雅道（神戸大学附属中等教育学校） ほんまなほ（大阪大学） 高橋綾（大阪大学） 稲原美苗（神戸大学）

(3) 本研究プロジェクトの対話実践の中で、当事者も非当事者も含まれる参加者が共に聞き、語り、考えることによって、異なる考え方が少しずつ言語化され、相互に理解が可能になるという見解に至った。この相互理解可能性は、それぞれの価値観や考え方をすり合わせて、再形成し、何がどのようにその人を生きづらくしているのかということ言語化し、問題的事象について考えることができるようにする少しずつ問題解決へと導くきっかけになり得る。このように本人の生きづらさを理解することは、非常に個別性が高く、枠にはめて捉えることが困難だとい

ことは明確である。そこで、対話が必要である。まず対話を通して、自分の生きづらさを他者に伝えるために、少しずつ言語化を試みることから始めた。その中で異なる意見を聞くことによって、自分の考えの前提に気づき、自分の生きづらさをより広い文脈で理解できるようになる。また、自分の生きづらさを自分の言葉で語り、他者と問い合うことで、自分も他者も尊重し、生きづらさ(自分と他者の違い)を受け止められるようになる。共に考えることによって、生きづらさという問題的事象を相互に理解し、信頼し合える人間関係を築くことも可能になると期待した。

(4) 本研究プロジェクトの研究代表者と研究分担者が個別に実施してきた調査についてまとめる。研究代表者の稲原は、対話実践の中で語られた障害者の経験を現象学的に考察してきたが、9名の研究分担者と共に本研究を展開させるうちに、当事者研究とは異なる対話実践の必要性に気づいた。研究分担者の梶谷は、経験豊富な哲学対話実践者であり、長年にわたって哲学対話の本質について調査を続けてきた。特に、本研究では、定時制高等学校での哲学対話実践がいかに学びの場を変容させるのかについて考察した。池田は、日本哲学プラクティス学会の中心メンバーとして多くの実践を分析してきた。稲原と共に国際学会で発表をし、対話が当事者にもたらすエンパワメントについて理論的に説明し、体系的に整理した。ほんまと高橋は、大阪大学での対話実践を続けてきた。高橋は、水俣病患者の表現について深く掘り下げて考え、ほんまは「当事者とは誰なのか」という本質的な問いについて考えた。松岡は、自身の社会教育・生涯学習プラットフォーム創成事業を振り返り、当事者性を広くとらえることによって当事者と非当事者をつなぐ対話実践について考察した。津田は、知的障害者向けの正規教育プログラムの中での、哲学対話実践を取り上げ、P4C(子どものための哲学)と当事者研究との関係性を示唆した。村山は、リスク学の見地から、被災地域でのリスクコミュニケーションにおける対話の可能性について方向を示した。中川は、神戸大学附属中等教育学校でのp4c Hawaii(ハワイで行われている子どものための哲学)の実践について調査を続けた。そして、三井は、稲原と共にオンラインでの哲学対話実践を2年間続けた経験を振り返り、対話の場にある不安感や懸念を解消するためにファシリテーションの在り方を考察した。

(7) 2024年3月に本科研プロジェクトの研究結果報告書として『哲学対話と当事者性』を刊行した。この報告書は、研究代表者と分担者の研究成果報告、そして、2023年9月24・25日に東京大学駒場キャンパスで開催された国際シンポジウムで登壇してくださった方々の研究報告をまとめたものになっている。『哲学対話と当事者性』に収録されている論文は、神戸大学附属図書館の学術成果リポジトリにて公開されている。

<引用文献>

稲原美苗(編)(2024)『哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書』

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計32件（うち査読付論文 15件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 16件）

1. 著者名 稲原美苗	4. 巻 0
2. 論文標題 対話の現象学 ~自分の経験と考えを自分の言葉で語ることの意義~	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B) (課題番号:19H01185) 「哲学プラクティスと当事者研究の融合: マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 梶谷真司	4. 巻 0
2. 論文標題 アクティビティではなくスピリットとしての哲学対話 ~宮崎東高校定時制夜間部での実践~	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B) (課題番号:19H01185) 「哲学プラクティスと当事者研究の融合: マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 19-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 IKEDA Takashi	4. 巻 0
2. 論文標題 Philosophical Dialogue and Empowerment	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B) (課題番号:19H01185) 「哲学プラクティスと当事者研究の融合: マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 35-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 ほんまなほ	4. 巻 0
2. 論文標題 さようなら 当事者 マイノリティとインターセクショナルリティをめぐる手紙	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B) (課題番号:19H01185) 「哲学プラクティスと当事者研究の融合: マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 44-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋綾	4. 巻 0
2. 論文標題 水俣を歌う、柏木敏治さんの活動 水俣病事件と「表現」活動について	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 60-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松岡広路	4. 巻 0
2. 論文標題 社会教育・プラットフォーム創成事業における対話実践の課題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 75-83
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 津田英二	4. 巻 0
2. 論文標題 神戸大学「学ぶ楽しみ発見プログラム」における知的障害者の自己についての語り	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 84-91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 村山留美子	4. 巻 0
2. 論文標題 リスクコミュニケーションと対話ー被災地での調査で学んだこと	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 92-96
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中川雅道	4. 巻 0
2. 論文標題 条件は、愛 Only Love is needed	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 97-102
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三井規裕 稲原美苗	4. 巻 0
2. 論文標題 対話の場にある懸念を解消するファシリテーションの在り方の検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 哲学対話と当事者性 2019-23年度科学研究費補助金基盤研究(B)(課題番号:19H01185)「哲学プラクティスと当事者研究の融合:マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 103-111
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗	4. 巻 8
2. 論文標題 コロナ禍でみえてきたもの ニューノーマルと障害者についての哲学的考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法と哲学	6. 最初と最後の頁 107-132
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田喬・堀田義太郎	4. 巻 613
2. 論文標題 哲学から差別を考える:差別の意味・不当さ・根深さ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『月報司法書士』	6. 最初と最後の頁 10-21
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KAJITANI Shinji	4. 巻 0
2. 論文標題 Think Together, Be Together: Inclusive Philosophy and the New Principle of Community	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Psychn Techn: Sospechas sobre una Relacin Intrincada, edited by Fernando Beresak, Bitcora de la BVF	6. 最初と最後の頁 0-0
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗・三井規裕	4. 巻 4
2. 論文標題 哲学カフェ企画運営から大学生が得た学びの検討 立場や考え方の異なる他者との対話実践	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 68-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 INAHARA Minae	4. 巻 3
2. 論文標題 A Dialogue between the Body Schema and the Body Image: A Case of Mild Athetoid Cerebral Palsy	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 PHILOSOPHY & CULTURAL EMBODIMENT	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三井規裕・阿部一晴	4. 巻 18
2. 論文標題 グループ学習を中心とした同時双方向型オンライン授業の学生の評価	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 情報コミュニケーション学会誌	6. 最初と最後の頁 29-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋綾	4. 巻 5
2. 論文標題 「生き延びることの倫理：非規範的なジェンダー・セクシュアリティと ボールルーム・カルチャー」の特集にあたって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター	6. 最初と最後の頁 96-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋綾・ほんまなほ	4. 巻 5
2. 論文標題 (解説) Paris is Burning とボールルーム・カルチャー	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター	6. 最初と最後の頁 98-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋綾	4. 巻 5
2. 論文標題 ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか： エージェンシーと文化運動	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床哲学ニューズレター	6. 最初と最後の頁 122-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三井規裕・森川修・尾室真郷	4. 巻 33
2. 論文標題 高等学校単位の大学見学会プログラムに関する参加高校生の評価	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学入試研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 278-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗、中川雅道、津田英二	4. 巻 3
2. 論文標題 大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 41-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶谷真司	4. 巻 36
2. 論文標題 共に考えることと共にいること 哲学対話による新たなコミュニティの可能性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 実存思想論集XXXVI 哲学対話と実存	6. 最初と最後の頁 7-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川雅道	4. 巻 6
2. 論文標題 「聴くこと」としてのケアリング	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 研究紀要：神戸大学附属中等 論集	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/81013133	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川雅道	4. 巻 3
2. 論文標題 書評：豊田光世『p4cの授業デザイン 共に考える探究と対話の時間のつくり方』	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 57-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三井規裕	4. 巻 12
2. 論文標題 オンライン同時双方向型グループ学習の促進を目的とした授業のデザインの検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 関西学院大学高等教育研究	6. 最初と最後の頁 115-121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川雅道	4. 巻 4
2. 論文標題 祈り、あるいは組織と対話のつながりについて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床哲学ニュースレター	6. 最初と最後の頁 30-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18910/86359	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗・藤原雪・山川哲	4. 巻 2
2. 論文標題 大学院生が企画運営する哲学カフェの社会教育学的実践 ~地域コミュニティでの対話の場作り~	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 88 94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋綾	4. 巻 2
2. 論文標題 当事者研究から哲学プラクティスが学ぶべきことー生きづらさや苦勞を抱える人たちとの対話と探究ー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 13 - 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 池田喬・山田圭一・佐藤暁	4. 巻 5-2
2. 論文標題 哲学対話：言葉による言葉の吟味としての	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フィルカル	6. 最初と最後の頁 6-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川雅道	4. 巻 126
2. 論文標題 障害を捉えなおす：多様な考えと出会う子ども哲学	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学人文科学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 3-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 池田喬・稲原美苗	4. 巻 2
2. 論文標題 書評 ヤーコ・セイックラ、トム・アーンキル 『開かれた対話と未来 今この瞬間に他者を思いやる』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 思考と対話	6. 最初と最後の頁 107-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 稲原美苗、小西真理子、川崎唯史、中澤瞳	4. 巻 35
2. 論文標題 男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ報告 「家族におけるケアと依存」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現象学年報	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計49件（うち招待講演 22件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 INAHARA Minae
2. 発表標題 Comment for Kathleen Lennon and Rael Alsop
3. 学会等名 「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育 本質主義の克服に向けて（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 「ケアの倫理」と当事者性の重なり ある障害者の葛藤からケアと依存のつながりを考えるー
3. 学会等名 第74回日本倫理学会大会 共通課題「ケア」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 INAHARA Minae
2. 発表標題 Phenomenology of Dialogue : The Significance of Speaking about One's Own Experiences and Thoughts in One's Own Words.
3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 IKEDA Takashi
2. 発表標題 Philosophy for Children and Empowerment
3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 KAJITANI Shinji
2. 発表標題 Practice of Philosophy Dialogue in the Part-time High School
3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 TSUDA Eiji
2. 発表標題 The Stories of Self of Students with Intellectual Disabilities Told with the Traditional Students in Kobe University Program for Inclusion
3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 NAKAGAWA Masamichi
2. 発表標題 Care, Love, Community in p4c
3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 TAKAHASHI Aya
2. 発表標題 Dialogue and Co-inquiry and Transferable Skills Training in Graduate School of Humanities, Osaka University
3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 HOMMA Naho
2. 発表標題 Do Not Abuse the Idea of "Tojisha": on Minority, Positionality and Intersectionality
3. 学会等名 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 INAHARA Minae
2. 発表標題 Phenomenology of Pain: A Dialogue between Self and Art(ist)
3. 学会等名 哲学系諸学会国際連合 (FISP) と日本の女性哲学研究者 の対話 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 IKEDA Takashi & INAHARA Minae
2. 発表標題 Philosophical Dialogue and Empowerment
3. 学会等名 子どもの哲学国際学会ICPIC (International Council of Philosophical Inquiry with Children) 第20回東京大会 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 INAHARA Minae
2. 発表標題 A Dialogue between the Body Schema and the Body Image: A Case of Mild Athetoid Cerebral Palsy
3. 学会等名 国際シンポジウム「Face-Body Studies Wrap-up Symposium」Day 2 "Body Schema, Arts, and Social Participation" (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三井規裕, 尾室真郷・森川修
2. 発表標題 高校生の資質・能力を育成する研修プログラムの検討ー多様な進路を選択する高等学校の生徒を対象とした高大接続の試みー
3. 学会等名 日本リメディアル教育学会東海・北陸支部2022年度大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 魚住洋一・高橋綾・ほんまなほ
2. 発表標題 生き延びることの倫理 非規範的なジェンダー・セクシュアリティとボールルーム・カルチャー
3. 学会等名 第75階関西倫理学会 ワークショップ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三井規裕、稲原美苗
2. 発表標題 哲学対話におけるファシリテーターの役割の検討 ビジネス分野との比較を通じてー
3. 学会等名 日本哲学プラクティス学会第3回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 INAHARA, Minae
2. 発表標題 Phenomenological Expressions of Pain: A Sense of Movement and Onomatopoeic Expressions in Japanese
3. 学会等名 TWO CULTURES: TWO SENSES: How the arts and humanities can contribute to Healthcare Education and facilitate improved intercultural understanding in Japan and the UK (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 オンライン哲学対話 日本・ドイツ生活文化の未来 第2回 日独の「住まい」を哲学する～Anne & Sebastian Gross氏との対談
3. 学会等名 ゲーテ・インスティテュート東京（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 当事者研究とフェミニスト現象学
3. 学会等名 療法士の当事者研究（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 石田絵美子著『「進化」する身体 筋ジストロフィー病棟における語りの現象学』を読んで
3. 学会等名 『「進化」する身体 - 筋ジストロフィー病棟における語りの現象学』合評会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 第1回哲学講座「オンライン哲学対話 人生の目的とは何か」
3. 学会等名 碧南市哲学たいけん村無我苑（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 第2回哲学講座「オンラインレクチャー & 哲学対話 宗教とは何か」
3. 学会等名 碧南市哲学たいけん村無我苑（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 第3回哲学講座「オンライン哲学対話 記憶」
3. 学会等名 碧南市哲学たいけん村無我苑（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 第4回哲学講座「オンライン哲学対話 コロナ禍のなか思うこと」
3. 学会等名 碧南市哲学たいけん村無我苑（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 第5回哲学講座「オンライン哲学対話 お金で幸せは買えるのか」
3. 学会等名 碧南市哲学たいけん村無我苑（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 第6回哲学講座「オンラインレクチャー & 哲学対話 葬式とは何か」
3. 学会等名 碧南市哲学たいけん村無我苑（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 「哲学対話ワークショップ 問う・考える・語る・聞くを知る」
3. 学会等名 公益財団法人豊橋文化振興財団（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 哲学対話とつながり～マイノリティ・コミュニティ創成の可能性を考える～
3. 学会等名 UTCP 哲学×デザイン プロジェクト33 哲学対話とコミュニティづくり～一緒に考えることでできるつながりとは？～（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 「障害はどのような経験なのか」生きづらさのフェミニスト現象学
3. 学会等名 第7回『フェミニスト現象学入門』読書会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中川雅道
2. 発表標題 対話の倫理とは？
3. 学会等名 日本倫理学会主題別討議「倫理的思考と道徳教育」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中川雅道、上村幸
2. 発表標題 学校と教科書と教員と：本当に学校は教育的なのか？
3. 学会等名 日本哲学会第80回大会、哲学教育ワークショップ「小中学校の特別な教科「道徳」の教科書と使い方を考える」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中川雅道
2. 発表標題 臨床哲学と不登校
3. 学会等名 オンライン・シンポジウム「不登校と哲学プラクティス」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 稲原美苗・中川雅道・津田英二
2. 発表標題 大学院生のための学際的探究コミュニティの創成と対話実践
3. 学会等名 第6回哲学プラクティス連絡会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 哲学プラクティスと当事者研究～エンパワメントの技術～
3. 学会等名 オンライン・シンポジウム「不登校と哲学プラクティス」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 思考の自由と排除なき共同性 哲学対話による新たなコミュニティの可能性
3. 学会等名 第36回実存思想協会臨時大会講演会「哲学対話と実存」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梶谷真司・梅谷薫（心療内科医）
2. 発表標題 薬になる言葉～医師と哲学者と考える“病と癒し”
3. 学会等名 IWキャンパス：アート&哲学対話 vol. 5
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 紫原明子・梶谷真司
2. 発表標題 誰とも同じではない私が、誰とも同じでない私のままでいることを許されるために
3. 学会等名 もぐら談話第3回
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 コロナの中の日常～生き方の変化と向き合う
3. 学会等名 UTCP公開哲学セミナー
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 INAHARA, Minae
2. 発表標題 The Impact of the New Coronavirus (COVID-19) on the Lives of People with Disabilities in Japan: Case Studies
3. 学会等名 Pandemic in the North Project - first seminar (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲原美苗、山川哲、井手雪
2. 発表標題 大学院生が企画・運営する哲学カフェの社会教育学的実践 - 地域コミュニティでの対話の場づくりにおける学び -
3. 学会等名 第5回哲学プラクティス連絡会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 INAHARA, Minae
2. 発表標題 顔認知の発達と障害と (Jonathan COLE氏への特定質問者として登壇)
3. 学会等名 日本心理学会第83回大会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 NAKAGAWA, Masamichi
2. 発表標題 Uncovering Prejudices Towards People with Disabilities: philosophy for children Can Create a Diverse Community
3. 学会等名 Pacific Rim International Conference on Disability & Diversity (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 HOMMA, Naho
2. 発表標題 Feminist Clinical Philosophy and Creative Writing
3. 学会等名 International Conference on Clinical Philosophy, Taiwan, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中川雅道
2. 発表標題 対話の促し
3. 学会等名 立命館大学衣笠総合研究機構間文化現象学センター研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 村山留美子
2. 発表標題 リスクと暮らしとコミュニティ 被災地域で見てきたこと
3. 学会等名 被災地をめぐる哲学対話 科学・技術・暮らし・芸術・コミュニケーションを手がかりに 本科研プロジェクトのクローズド研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 観る、感じる、聞く、対話する 東北の被災地で自己を見つめ直す
3. 学会等名 被災地をめぐる哲学対話 科学・技術・暮らし・芸術・コミュニケーションを手がかりに 本科研プロジェクトのクローズド研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 対話によるコミュニティのつくり方
3. 学会等名 第6回町田市生涯学習センター交流会「町田でカフェだよ！全員集合」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 梶谷真司
2. 発表標題 対話型哲学の可能性～教育から地域づくりまで」
3. 学会等名 SDGs企業戦略フォーラム（国連大学）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 梶谷真司、稲原美苗、伊是名夏子、藤原雪、PECKITT, Michael Gillan
2. 発表標題 障壁のある人生をどのように生きるのか？
3. 学会等名 <哲学 x デザイン> プロジェクト18、 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属「共生のための国際哲学研究センター」（UTCP）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 稲原美苗
2. 発表標題 哲学対話～「生きづらさ」を自分で「考える・語る・表現する」
3. 学会等名 日本ファシリテーション協会関西支部イベント「わかりあえないことから、はじめる。インクルーシブとファシリテーション」(招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 津田英二	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 240
3. 書名 生涯学習のインクルージョン - 知的障害者がもたらす豊かな学び	

1. 著者名 稲原美苗、川崎唯史、中澤瞳、宮原優(編著) 稲原美苗(四章担当)池田喬(八章担当)	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 336
3. 書名 フェミニスト現象学 - 経験が響きあう場所へー	

1. 著者名 池田喬、堀田義太郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 アルバカ	5. 総ページ数 272
3. 書名 差別の哲学入門 (シリーズ・思考の道先案内1)	

1. 著者名 稲原美苗、川崎唯史、中澤瞳、宮原優（編著） 池田喬（7章、12章担当）稲原美苗（コラム1、8章、13章担当）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 195
3. 書名 フェミニスト現象学入門 経験から「普通」を問い直す	

1. 著者名 Deborah Padfield & Joanna M. Zakrzewska (eds.) 稲原美苗（12章担当）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 UCL Press	5. 総ページ数 409
3. 書名 Encountering Pain Hearing, seeing, speaking	

1. 著者名 河野哲也（編） 梶谷真司（2章3担当）中川雅道（2章1、3章5.6担当）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 363
3. 書名 ゼロからはじめる哲学対話：哲学プラクティスハンドブック	

1. 著者名 寺田俊郎（編著） 中岡成文（監修） 中川雅道（3章、終章担当）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 336
3. 書名 哲学対話と教育	

1. 著者名 村田和代（編著） 中川雅道（1章担当）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 266
3. 書名 これからの話し合いを考えよう	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>哲学×デザイン プロジェクト19 「障壁のある人生をどのように生きるのか」 https://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/events/2020/01/post_203/ オンライン・シンポジウム「不登校と哲学プラクティス」 https://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/z/news_and_event/2021-04-02-23 オンライン・シンポジウム「当事者「家族」のための哲学対話 ～家族の「普通」を問い直す～」 https://www.h.kobe-u.ac.jp/ja/z/news_and_event/2023-02-23-547 研究集会「G.ピースタの P4C 批判とその行方 哲学プラクティスの現在への一視角」 https://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/events/2023/07/g/ 哲学対話と当事者研究についての総括シンポジウム Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority https://utcp.c.u-tokyo.ac.jp/events/2023/09/wrapup_symposium_on_philosophy/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松岡 広路 (Matsuoka Koji) (10283847)	神戸大学・人間発達環境学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	村山 留美子 (Murayama Rumiko) (20280761)	神戸大学・人間発達環境学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	津田 英二 (Tsuda Eiji) (30314454)	神戸大学・人間発達環境学研究科・教授 (14501)	

6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	梶谷 真司 (Kajitani Shinji) (50365920)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	
研究分担者	高橋 綾 (Takahashi Aya) (50598787)	大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、 日本学専攻)・講師 (14401)	
研究分担者	池田 喬 (Ikeda Takashi) (70588839)	明治大学・文学部・専任教授 (32682)	
研究分担者	三井 規裕 (Mitsui Noriyasu) (70844471)	桃山学院大学・共通教育機構・准教授 (34426)	
研究分担者	本間 なほ(ほんまなほ) (Homma Naho) (90303990)	大阪大学・C Oデザインセンター・教授 (14401)	
研究分担者	中川 雅道 (Nakagawa Masamichi) (00842923)	神戸大学・附属学校部・附属中等教育学校教諭 (14501)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	エーマン マイブリッド (Ohman May-Britt)	ルレオ工科大学・上級研究員	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ルーキー ベンジャミン (Lukey Benjamin)	ハワイ大学マノア校・教授	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Le pratiche filosofiche in Italia e in Giappone Il dialogo filosofo e la cura (イタリアと日本の哲学プラクティス 哲学対話とケア)	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Wrap-up Symposium on Philosophy Dialogue and Empowerment of Minority	開催年 2023年～2023年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関